

Be Real 大谷大学
寄りそう知性



大谷大学地域連携室 事業報告書 2016

大谷大学地域連携室 事業報告書 INDEX

- 01 事業報告書発刊によせて
- 02 2016年度 ハイライト1
京都市「学まち連携大学」促進事業採択
- 04 2016年度 ハイライト2
京都市北区「学区まちづくりビジョン策定補助及び
策定マニュアル作成業務」受託
- 06 祇園祭ごみゼロ大作戦2016
- 08 中川学区の暮らし再発見プロジェクト
- 10 北大路地域情報発信プロジェクト
コミュニティラジオ「大谷大学HAPPY HOUR」制作・放送
- 12 子ども・子育て支援プロジェクト
- 14 東北コミュニティ・デザイン スタディツアー
- 16 パブリシティ実績
- 17 地域連携室 紹介



事業報告書発刊によせて

大谷大学 地域連携室(コミュ・ラボ)が2015年6月に開設して3年目を迎えます。この間、大学がある京都市北区を中心に、行政・NPO・地域団体・教育施設等のご協力をいただきながら、様々なプロジェクトを展開してきました。

大谷大学は、「人に寄り添い、ともに考える」ことができる人物の育成を目指していますが、その一端を担うべく地域連携室はより実践的な学びと地域貢献の両立を志す各プロジェクトをサポートしてきました。各位のご協力のもと、ようやく多種多様な地域でご活躍されている皆さまと関係を築くことができはじめているところです。

活動に参加した学生たちは、様々な地域の方々とのコミュニケーションを通じて知識と経験を深めるとともに、チャレンジ精神や自信、積極性が養われていることがうかがえます。ご協力頂きました連携パートナーである皆さまに改めて御礼申し上げます。

パートナーの皆さまとともに歩み、達成できたことを丁寧に振り返るとともに、2017年度に内容あるプロジェクトを展開できるよう、ここに事業報告書を制作・発行いたします。

本報告書が、さらにに地域の皆さまとのつながりを広めていくことを心より祈念しています。



大谷大学 地域連携室 室長 高井康弘

大谷大学文学部社会学科 教授。これまでの主な担当科目は【院】社会学特殊研究(演習)/社会学・文化人類学演習/社会学科総合演習/社会学演習/フィールドワークなど。2017年度より、「社会調査実習」にて地域連携事業を担当。



2016年度ハイライト1

「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」が「学まち連携大学促進事業」として採択されました!

「学まち連携大学」促進事業とは

「『学まち連携大学』促進事業」とは、地域との連携による実践的な教育プログラムに取り組む大学を支援する京都市の新たな取組みです。

京都市内の大学を対象として公募され、本学を含む京都の6大学の提案が採択されました。

2016年9月21日に開催された「『学まち連携大学』促進事業 認定式」において、門川京都市市長より木越学長に認定証が授与されました。



2016年9月21日
「学まち連携大学」促進事業
認定式

大谷大学の地域連携によせて

大谷大学では、以前より短期大学部幼児教育学科を中心に北区などと連携し、大学施設なども活用して地域の子育て支援の取り組みを進めてきました。また、2015度は、学内に地域連携室を開設し、文学部社会学科での正課授業等を通じて地域自治団体やNPO等と連携を図り、地域活性化を図る取り組みを進めています。

2016年夏に(公財)大学コンソーシアム京都及び京都市による大学における地域連携事業のカリキュラムとの連動及び全学化を促すことを目的とした補助事業「学まち連携大学促進事業」の公募が発表されました。

本学・大谷大学が「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」として申請し、採択されました。このご支援により、よりいっそう活動及び授業の充実を図ります。

「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」では、大学の位置する烏丸北大路地域において、地域住民やNPO、地元企業、商店等の事業組織と大学が連携し、宗教や歴史、国際文化、教育、保育、情報メディアなど、様々な専門性を有する学生、教員が正課、および正課外の活動を通じて、子育て支援や、地域情報の発信、観光振興などをテーマに、地域の魅力をさらに高めるような取り組み、あるいは地域の課題を解決、改善するような取り組みの推進を目指して活動していくことを計画しています。



大谷大学
大谷大学短期大学部
学長 木越 康

学生・教職員が、学び・暮らす街である烏丸北大路エリアでこれらの活動を通じて、

- ①研究成果の社会還元
- ②実践活動を通じた学生の学びの充実
- ③地域貢献

の3つが両立・実現できるよう、取り組んで参ります。

プロジェクト一覧

「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」は2016年度から2019年度まで、約4年をかけて取り組むプランです。大谷大学・大谷大学短期大学部には、合わせて11の専門領域があり、それぞれの専門性を生かした地域連携事業に取り組んでいきたいと考えています。

下記の5つのプロジェクトが計画されています。

子ども・子育て支援プロジェクト

京都市及び北区役所、乳幼児の育児世帯などからも高い評価を得ている「すくすく赤ちゃんひろば」等の子育て支援事業の継続実施とともに、子どものおもちゃ交換会や親子カフェの実施といった取り組みの充実を目指します。

また、地域からの希望も踏まえ、大学の子育て支援の拠点として活用する可能性を探ります。

連携パートナー

北区役所、民生児童委員会、社会福祉協議会、幼稚園、保育所、児童館、教育委員会など

地域情報の発信プロジェクト

京都市内の他エリアと比べて、旅行雑誌やタウン情報誌等の商業媒体で紹介されることが少ない烏丸北大路エリアで、地域に密着した情報を取材し、発信します。具体的には、現在放送中のラジオ番組制作に加え、地域情報サイト(人、店、行事などの紹介)の運営や、情報誌発行など、様々な媒体による情報発信に取り組みます。

連携パートナー

コミュニティラジオ局、地元事業者(商店街)など

地域活動への若者の参加促進プロジェクト

地域の高齢化が進むなかで、地域活動への若者たちの参加を促し、地域の若返りを目指します。

具体的には、町内会などが行う防犯・防災活動へ参加や、空き家を活用した学生の生活拠点(シェアハウスなど)、活動の拠点づくりに向けて活動します。

連携パートナー

地元住民組織、不動産事業者など

観光振興プロジェクト

宗教、歴史、国際文化等の専門性を活かし、訪日外国人を含めた様々な観光振興の事業を企画します。

具体的には、地域散策マップの作成やまち歩きツアーの実施、外国人観光客を対象とした多言語観光ガイドマップ作成、飲食店へのメニュー表示の多言語化支援などに取り組む予定です。

連携パートナー

地元住民組織、事業者、寺社、北区役所、京都市産業観光局、京都市観光協会など

祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト

祇園祭の宵々山・宵山で展開されている環境対策活動(リユース食器、ごみ分別回収など)への参加を継続、発展させていきます。

一般ボランティアに限らず、マネジメントを担うコアリーダーとしても参加します。

連携パートナー

(一社)祇園祭ごみゼロ大作戦(法人化準備中)、関連するNPO、行政、事業者など



*このプランは、2017年6月現在のものです。内容は変更になる場合があります。

2016年度の取組み

「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」として取組んだ地域連携プロジェクトの詳細については、それぞれの報告ページをご参照ください。



祇園祭ごみゼロ大作戦2017
→詳しくはP.6~7へ



北大路地域情報発信プロジェクト
コミュニティラジオ
「大谷大学HAPPY HOUR」制作・放送
→詳しくはP.10~11へ



子ども・子育て支援プロジェクト
→詳しくはP.12~13へ



2016年度ハイライト2

京都市北区「学区まちづくりビジョン策定補助及び策定マニュアル作成業務」受託

「学区まちづくりビジョン」と本学の関わり

学区まちづくりビジョンは、北区制60周年の2015年に策定された北区基本計画「北区民つながるプログラム」において、2020年をめどに全ての学区で策定を目指すとして掲げられたものです。そこでは、住民と大学が連携・協働しながら、学区の将来像を住民自らが主体的に考え、みんなで議論しまとめていくプロセスが重視されています。本学では、教員の専門的知識や技能と学生の積極的な参加意欲を活かしてビジョンづくりに関わりました。

2016年度の活動

2016年度は紫竹学区のビジョンづくりに参加。教員と中心となる学区メンバーや区役所スタッフとでコアスタッフ会議を重ねながら、学区内で開催された夏祭りや運動会などの催し事でアンケートを実施。集まった声を元に3度のワークショップを重ねながらまとめていきました。ワークショップには子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方がお集まりいただき、和気あいあいとした話し合いが持たれました。学生はワークショップのファシリテーション(進行)、記録、発表、ワークショップをまとめたニュースレターの原稿作成、動画による記録などの役割を担いました。



参加メンバー

紫竹学区の皆さん



大谷大学
教員+学生
有志



北区役所の
皆さん

紫竹学区自治連合会の皆さんをはじめ、回覧板での告知を見て参加して下さる方も。暮らしているからこそ分かる学区の現状、魅力などについて、様々な視点からの意見がたくさん出ることが出来ました。



活動の様子



- 09.21 コアスタッフ会議
- 10.15 第1回ワークショップ
ニュースレターNo1発行
- 11.02 コアスタッフ会議
- 12.03 第2回ワークショップ
ニュースレターNo2発行
- 01.10 コアスタッフ会議
- 01.28 第3回ワークショップ
ニュースレターNo3発行
- 01.31 コアスタッフ会議
- 02.11 紫竹エコ祭りにてビジョン発表
- 02.28 コアスタッフ会議
- 03.31 ビジョン冊子完成

ワークショップには社会学科、人文情報学科の学生が参加し、参加住民の皆さんの学区への思いを引き出しつつ、これからの学区の未来についてじっくりと語り合う時間を創り出していました。

学生からは話を聞くだけでなく街も歩きたいという声も上がり、地域踏査にも出かけました。住民の方へ積極的にインタビューし、記録を取る学生やうまくまとめられない場面では、学生同士や同じグループの住民の方からのフォローが入るなど、協働して取り組む中で一体感が生まれていました。



完成版の「紫竹学区まちづくりビジョン」は、京都市北区役所の窓口で配布されているほか、Webサイトからもダウンロードして見ることができます

【お問合せ】
北区役所地域力推進室
企画担当
Tel:075-432-1199

「策定マニュアル」とは

北区にある18学区のうち、学区ビジョンが策定されているのは4学区。2016年度に新たに2学区が策定を終え残り12学区がこれから策定に入ります。

本学はこれから策定する学区に向けた「策定マニュアル」の作成を北区から依頼されました。2015年度に策定をした2学区での策定の経過や、これまで策定されているまちづくりビジョンを参考に、わかりやすく手に取りやすいマニュアルを作成しました。





祇園祭ごみゼロ大作戦 2016

場所：京都市中京区・下京区(四条烏丸近辺)／期間：2016年4月～8月／科目：文学部社会科学科専門
参加者数：133人(科目受講者38人、公募66人、ボランティアリーダー11人、教職員18人)
連携パートナー：一般社団法人 祇園祭ごみゼロ大作戦(設立準備中)

伝統と観光、そして環境の両立を目指す 市民2000人のチャレンジ

京都のみならず、世界有数の伝統的な祭事である祇園祭。祭の山場となる山鉦巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが廃棄物のこと。以前に比べ散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方でした。

そこで2014年、NPO、行政、夜店や屋台、ごみ収集事業者などの協力のもと、日本初、そして世界初の試みとして、使い捨て食器を、繰り返し洗って使用可能なリユース食器に切り替える「祇園祭ごみゼロ大作戦」の活動が始まりました。この活動には、のべ2000人の市民がボランティアとして活動を支えています。大谷大学では、2015年より祇園祭ごみゼロ大作戦の活動に協賛し、また、全学を挙げてこの活動に参加しています。

プロジェクトを通じた学び



2015年度に続き、2016年度も文学部社会科学科の正課科目「社会学特殊演習5」の一環として、本プロジェクトに取組みました。授業の中では、世界屈指の伝統行事である祇園祭の歴史と市民の関わりを筆頭に、伝統と観光の両立、京都市の廃棄物問題など、多様な視点から「祇園祭ごみゼロ大作戦」という活動の背景について理解を深め、その上で宵々山・宵山を迎えました。来場者に比例し、積み上がるゴミの山。路上に溢れる散乱ごみ。そんな現実を目の当たりにしながらも、同じエコステーションのメンバーと協力しながら、リユース食器の回収やごみの分別を促していきます。活動現場では、学年・学科の異なる本学の学生のほか、他大学の学生や社会人、時には中高生とも活動を共にします。鉦町にお住まいの方や来場者の皆さんに感謝や励まし、時にはお叱りを受けながら、「様々な立場の人たちがひとつの目的に向けて協力し、実行する」ということの意味と難しさを実感しつつ、それでも協力し合うからこそ大きな目標も達成できるということを体感しながら学んでいます。授業のまとめとして、グループワークを行い、活動からの気づきと提案を考え、祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会に報告しました。この報告は、次年度のごみゼロ大作戦の企画・実施に向けた検討材料として活用されています。

地域へ貢献

祇園祭ごみゼロ大作戦では、のべ2000人にも上るボランティアが活動を支えています。大谷大学は、大谷大学としてのべ133人を超える最多の参加者数を誇っており、四条烏丸南西エリアを大学として担うことになりました。本活動に参加することは、①鉦町の廃棄物対応の負担を軽減、②使い捨てごみの減量に貢献、③伝統と観光、環境の両立に大きく貢献しています。

ステップアップ



2016年度の祇園祭ごみゼロ大作戦では、ボランティアリーダーに11名の学生がチャレンジしました。ボランティアリーダーとは、事前の研修やミーティングも含め準備段階からこの活動に関わり、運営本部スタッフやボランティアスタッフとともに、祇園祭ごみゼロ大作戦を作り上げていくボランティアです。リユース食器及びゴミの分別拠点となるエコステーションの運営サポートや全体進行管理など、時間・場所に限りのある祇園祭ごみゼロ大作戦を円滑に進めるマネジメントの一端を担いました。また、大谷大学の学園祭「紫明祭」においてもリユース食器の利用・回収を導入し、ゴミの減量に取り組むなど、広がりを見せています。

更なる関心の深まり

祇園祭ごみゼロ大作戦には、「社会学特殊演習5」の受講生以外にも、全9学科・全学年から参加者がありました。主な参加動機は、「京都の大学に通っているの、京都らしい活動に参加したい(国際文化学科第3年)」「祇園祭自体が初めて。お祭の雰囲気も味わえ、地域貢献にもなるのはすばらしいと思い、応募した(社会学科第1年)」などが挙げられます。また、活動後のアンケートでは、「来年はボランティアリーダーにチャレンジしたい(真宗学科第1年)」「学外の人たちとの交流に刺激を受けた。もっと色々なボランティア活動に参加したい(人文情報学科第3年)」といった、学科・学年を問わず、学生たちの京都という地域への関心の深まりや地域活動への意欲の高まりが窺えました。



2017年度に向けて

2017年度からは、正課科目を文学部全学科共通科目の「人間学2」、大谷大学短期大学部の「仏教と人間2」へと変更し、本プロジェクトの学びを全学科に開放していきます。また、2016年度に引き続き、全学を挙げてのボランティア参加、ボランティアリーダーを務める学生の輩出にも取り組む予定です。



中川学区の暮らし再発見プロジェクト

場所：京都市北区中川学区／期間：2016年4月～2017年3月（継続中）
 科目：文学部社会学科地域政策学コース専門科目／参加者数：17人（科目受講者14人、教員3人）
 連携パートナー：中川学区社会福祉協議会

地域に暮らす人とともに、 今・そしてこれからの暮らしを見つめる

中川学区は高齢化率40%を超える山間の地域です。最寄りの病院やスーパーまでは車で30分以上かかります。公共交通機関であるバスは1時間に1本しか走っていません。このことだけを聞くと「暮らしにくそう」「大変そう」と多くの方が思うかもしれません。しかし、この地域には、とても豊かな自然があります。地域の人たちがこれまで作りあげてきた歴史や文化、暮らしがあります。そしてなによりも、そこに暮らす人々の地域への「思い」があります。

本学では、このプロジェクトを通して、地域に暮らす人々の「思い」を大切に、地域の抱えている課題や、地域の「これまで」と「今」、そして「これから」のことをともに考えていきたいと思っています。

プロジェクトを通じた学び

2015年度から始まった本プロジェクトでは、地域の人たちとの交流活動や、暮らしの実態調査を実施しています。サロン活動や、まんな茶育成プロジェクト、地域での祭りや清掃活動などへの参加を通して、地域の歴史や文化、仕事や暮らしについてお話を伺ったり、交流を深めたりしています。何気ない会話の中にある地域への思い、暮らしの中の困りごとについてしっかりと耳を傾ける活動でありたいと考え、活動に取り組んでいます。

山間の地域での暮らしのお話は初めて聞くことや、驚くこともたくさんあります。何度も地域を訪ね、お話を伺い、さまざまな活動を共有する中で、暮らしを知り、そしてともに考えるという経験につながっていると感じています。

地域へ貢献

本プロジェクトは中川社会福祉協議会との連携事業として取り組んでいます。「地域の人々が日々の暮らしの中で感じている困りごとは何だろう?」「暮らしの不安を少しでも解消、解決できる方法はないのだろうか?」という社協のみなさんの地域への思いが、私たちが連携して中川学区での暮らしの実態調査を始めることになったきっかけでした。

中川学区での「今」の状況を知るために、お一人おひとりのお宅を訪問し、お話を伺っています。暮らしの実態調査や、地域のみなさんとの交流を通して感じたことや考えたことを「活動記録集」としてまとめ、地域のみなさんのもとへお配りさせていただきました。この記録集が、みなさんとともに地域のこれからのことを考えるきっかけの一つになればと考えています。

ステップアップ

2016年度は地域のみなさんとの交流を図りたいと「andサロン」活動を始めました。「どうすれば真弓のみなさんに楽しんでもらえるかな?」「こんな企画はどうだろうか?」学生一人ひとりが意見を出し合いながら、準備に取り組みました。

また、杉阪地区で行った暮らしの実態調査では、暮らしや環境のこと、福祉ニーズを客観的にとらえるとともに、お一人おひとりの思いも受け止めることを心がけながら、調査報告書をまとめました。



↑調査はお家を一件ずつ訪問して行なう。色んなお話の中に、中川での思い出、暮らしの変化などが少しずつ語られていく。



↑調査が佳境を迎え、ディスカッションにも力がこもる



↑2016年の主な調査地である中川学区・杉阪地区には、道風神社という由緒正しい神社があり、11月にお火焚きという神事が執り行われる。火を囲み、学生たちが手づくりしたお善哉を食べながら、話が弾む



↑中川学区の暮らし再発見プロジェクト活動記録集Vol.2 閲覧希望の方は、地域連携室までお問い合わせください

2017年度に向けて

中川学区での活動は3年目を迎えます。これまでの真弓地区、杉阪地区に引き続き、2017年度は中川地区において、75歳以上の方を対象にした暮らしの実態調査を行います。また、北山三学区（中川・小野郷・雲ヶ畑）や他大学との交流・連携をはかりつつ、活動を進めていきたいと考えています。



北大路地域情報発信プロジェクト

場所：京都市北区烏丸北大路近辺 / 期間：2016年4月～2017年3月(継続中)
 科目：文学部社会学科地域政策学コース専門科目 / 参加者数：15人(科目受講者14人、教員1人)
 連携パートナー：特定非営利活動法人コミュニティラジオ京都 ほか

暮らす街・北大路の豊かさ・面白さを伝えたい

京都市内の他エリアと比べて、旅行雑誌やタウン情報誌等といったメディアでの情報掲載が少ない烏丸北大路エリアにて、地域に密着した情報を取材し、発信します。

具体的には、現在放送中のラジオ番組制作に加え、地域情報サイト(人、店、行事などの紹介)の運営や、情報誌発行など、様々な媒体による情報発信に取り組みます。

プロジェクトを通じた学び

豊かな自然、数々の世界遺産、個性的な個人経営のお店はあるものの、いわゆる京都のガイドブックなどには情報が掲載されないことも多いことに着目し、「暮らす街」としての魅力丁寧に取材・発信していくことで烏丸北大路地域の活性化を目指しています。そのための第一歩として、2016年5月22日に開局した「Radiomixkyoto」でのラジオ番組の制作・放送。メンバーの大半が京都市外からの通学生であることから、まずは、この番組を通じて、北区のことについての理解を深めていきました。

ラジオ番組には、北区長をはじめ、行政・地域団体・NPO・地域の企業やお店の人たちにご出演頂き、北区のさまざまな事情について学んだほか、番組制作を通じてチームワーク、学外の協力して下さる方々とのコミュニケーションなども、同時に習得することができました。

地域へ貢献

北区は地域住民の方がとてもアクティブなこともあり、自治会活動をはじめ、地域・まちづくり活動についても熱心な方がたくさんいらっしゃいます。そうした地元の人には当たり前すぎて発信されていない「生活の場」としての魅力を、現在お住まいの方へ、そして京都でお住まいを探している方へお伝えしていくことで、烏丸北大路エリアの活性化に貢献できると考えています。

繋がってくださった皆さん

2016年度は、全45回の放送において、合計42組(NPO18、行政関係7、企業関係5、個人事業主7、地域団体関係2、その他3)の北区をフィールドに活躍されているゲストをお招きし、事業活動の趣旨やその背景、魅力などお話ししました。事前打合せでは、実際に活動されているフィールドへ赴き、活動の様子などを見学させていただく経験もたくさんありました。

お話を聞くことで、初めて知る世界や自分たちの経験だけでは想像のつかない出来事など、多様な社会の側面とそれらを支えている人たちの存在について学べたこと、そして繋がっていただけたことは貴重な財産です。



↑記念すべき第一回ゲスト 北区長と打合せ

野町さん、高瀬川さん、NPO法人hanare 浜上真琴さん、ジョー工務店 近藤陸也さん、NPO法人京都景観フォーラム 篁さん、京都市北文化会館 小林さん、NPO法人椋野ワークスTAO 中川明廣さん、京都あけぼの文化サロン 橋爪ひとみさん、上賀茂手づくり市～小川と緑の手づくり市～ (株)クラフト 工藤健太郎さん、高麗美術館 鄭 喜斗さん and more・・・(出演順)

2017年度に向けて

2016年度に引き続き、ラジオ番組の制作・放送を継続していくほか、地域情報サイト「キタキタ」による情報発信やフリーペーパーの編集発行にも取り組む予定です。



子ども・子育て支援プロジェクト

場所：大谷大学、楽只保育園 ほか／期間：2016年4月～2017年3月(継続中)
 科目：短期大学部幼児教育保育科 専門科目
 連携パートナー：京都市、北区役所、北保健センター、紫明幼稚園、楽只保育園 ほか

楽しく過ごしながら仲間づくりができる場所へ 地域子育て拠点を狙って

歴史があり、自然豊かな北区には住宅地も多く、子育て世帯もたくさん暮らしています。京都市及び北区の子育て政策の中で、乳幼児の子育て中の保護者の不安や疑問を解消し、地域の人たちとの仲間づくりや交流活動が推進されています。こうした状況を踏まえ、大谷大学・大谷大学短期大学部では、将来幼稚園教諭や保育士を目指す学生達の学びと地域貢献を両立した試みとして、次の活動に取り組んできました。

(1) 北区の掲げる『子どもを安心して産み育てることのできるまちづくり「ニコニコ北っ子事業」等の推進』の実践の一つとして、「すくすく赤ちゃん広場」を開催。地域の子育て中の親子が集い、主任児童委員や地域子育て支援ステーションなどの子育て支援者との交流を深める場を設けています。

(2) 京都市の施策の一環で、身近な地域における子育て支援のネットワークの拠点として、市内のすべての保育園(所)、認定子ども園、児童館が「地域子育て支援ステーション」として指定されています。北区にある「紫明幼稚園」「楽只保育園」も「地域子育て支援ステーション」の指定を受けており、こちらの2園と連携して「子育て相談の実施」「子育て講座・園庭開放等の実施」などを「あかちゃんにこちゃんサロン」「赤ちゃんの『いないいないばあ』教室」として取り組んでいます。

プロジェクトを通じた学び

大谷大学短期大学部幼児教育保育科で幼稚園教諭や保育士を目指す学生達が、参加者の保護者や乳幼児をサポートしています。本活動を通じて、乳幼児や保護者のニーズを学んだり、地域として子育てを支援する関連機関や政策などを学ぶことにより、より実践的かつ広い視野で子どもたちとその保護者をケアできる人物の育成につながっています。

また、2016年度の「いないいないばあ教室」は、学生有志で子育て支援チームを結成し活動に取り組みました。「いないいないばあ教室」の活動と併せて京都市の子育て支援事業の普及広報活動にも参加し、新聞社6社(朝日新聞社、共同通信社、京都新聞社、京都リビング新聞社、産経新聞社、読売新聞社)へ「いないいないばあ教室」プレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションの準備を通じて学生自身も、現在の子育て環境についての理解と事業の意義に関する理解を深め、各社から高い評価を受けたことにより、自分たちの活動に対する自信が高まりました。

地域へ貢献

大谷大学短期大学部の子ども・子育て支援プロジェクトは、京都市や北区役所・北保健センターの子育て施策の実践として位置づけ、主に乳幼児期の子どもの健やかな育ちと、保護者の仲間作りを始めとして、主に下記に挙げる3つの活動に取り組んでいます。

(1) すくすく赤ちゃん広場

乳幼児の保護者と保護者、そして支援者との地域交流を目的とした事業を地域子育てステーション・主任児童委員・社会福祉協議会・子ども支援センターなどと共同で実施しています。

2016年度は、10月21日(金)午前10時～11時30分実施。参加者は、125名(赤ちゃん61名、母親60名、父親4名)とたくさんの親子に参加頂きました。スタッフは学生77名を含めて143名に上り、きめ細やかなサポートを行なうことができたことで、好評を得ることができました。

(2) 赤ちゃんにこちゃんサロン

2016年度は、8月、12月、3月の3回実施。それぞれ、わらべ歌や手遊び、絵本読み聞かせなどに加えて、水遊びやツリー作りなどの季節を生かした遊びや、保健センターより保健師の方に来ていただき赤ちゃんの健康にかかわるお話を聞く場を設けるなどのプログラムを実施しました。結果、のべ15組31人の親子の参加があり、15人の学生と3人の教員が活動に参加しました。

(3) いらないないばあ教室

北区内における子育て支援活動の拡充として、京都市保育課主管の子育て支援事業「いないないばあ教室」を引き続き実施しました。6回を1区切りに、1クールの内容は①自己紹介、おもちゃ作り ②離乳食の話 ③0歳児担任との話(楽只保育所にて) ④健康についての話 ⑤ほっこり子育て広場(テーマを決めておしゃべり会) ⑥参加者のリクエスト活動を年度中に2度実施しました。

また、本事業のスピノフ事業として本学教員による「子どもと絵本」と「乳幼児の感覚と育ちへの寄り添い」をテーマとした特別講座も開催しました。

本事業は、北区と大谷大学との包括協定に基づいて「覚書」を交わしており、大谷大学は北区における子育て支援事業の拠点として位置づけられています。

次年度に向けて

2016年度に引き続き、「すくすく赤ちゃん広場」「赤ちゃんにこちゃんサロン」「いないないばあ教室」の活動を展開し、北区における子育て支援事業の拠点としての機能を高めていきます。

また、「学まち連携大学促進事業」の補助金で整備した遊具「木の玉プール」も活用し、木育(*)を基調とした活動にも取り組みます。

(*) 木育とは、木材や森林との関わり合いから、知育、徳育、体育の3つの側面を効果的に育む取り組みのことをいいます





東北コミュニティデザイン スタディツアー

場所:宮城県石巻市・女川町/期間:2016年9月13日~16日/科目:なし(課外活動)
 連携パートナー:いしのまきカフェかぎかつこ、石巻2.0、巻組、日和キッチン、りぶらす、石巻復興支援ネットワーク、女川フューチャーセンターCamass、南三陸せっけん工房、ダイビングサービスハイブリッジ

地域の未来を創る コミュニティデザインの最先端を訪ねて

東日本大震災から5年の歳月が過ぎました。被災地に住み暮らす若者たちは、震災からの復興に向けて、どのような活動に取り組んできたのでしょうか。そして、これからどのようなコミュニティづくりをめざしているのでしょうか。

今回のスタディツアーでは、東日本大震災でも特に被害の大きかった石巻市、女川町を訪ね、現地で復興・まちづくりのために起業したリーダーたちから、コミュニティデザインやコミュニティビジネスの先進事例を学びました。

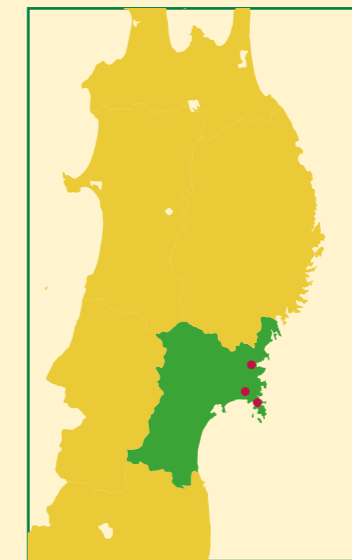
プロジェクトを通じた学び



2011年3月の東日本大震災は、多くの人々の生命や仕事、地域コミュニティなどを破壊し、甚大な被害をもたらしました。その震災から5年が経過した今、被災地には若い人たちが震災からの復興に向けて、とてもアクティブに活動しており、今やコミュニティビジネスの最先端となっています。彼らがどのように活動や事業を立ち上げ、発展させてきたのか、また今後の地域づくりをどのように考えているのか。このスタディツアーでは、東日本大震災でも特に被害の大きかった石巻市、女川町を訪ね、現地のリーダーから直接、コミュニティデザインやコミュニティビジネスのグッドプラクティスを学びました。

スケジュール

- | | |
|--|---|
| <p>1日目
高速バスで仙台へ出発</p> <p>2日目
(1)いしのまきカフェかぎかつこ
(2)みらいサポート石巻
(3)巻組
(4)日和キッチン</p> <p>3日目
(5)女川フューチャーセンターCamass
(6)南三陸せっけん工房
(7)ダイビングサービスハイブリッジ</p> | <p>4日目
(8)りぶらす
(9)石巻復興支援ネットワーク
(10)愛さんさん宅食
高速バスで京都へ出発</p> <p>5日目
京都到着</p> |
|--|---|



フィールドワークをベースに、活動の現場の見学にとどまらず、起業された皆さんから創業当時の想いや事業設計の工夫などについても、詳しく教えて頂きました。ご協力頂いた皆さんは、地域の自然環境や特産物を活かし、地域固有のニーズや課題の解決とともに新規雇用を作り出すなど、副次的な効果も視野に入れながら、事業者だけでなく、ユーザーや、地域にとってもプラスにつながる事業展開をされていました。



左上から時計回りに
京都駅から揃って出発/いしのまきカフェかぎかつこ/ダイビングセンターハイブリッジ/南三陸せっけん工房/みらいサポート石巻

2016年度 パブリシティ実績

様々なメディアで大谷大学の地域連携事業についてご紹介いただきました。

新聞

- 4月20日 京都新聞(朝刊)
「@キャンパス 北山杉の里 再発見」
- 5月9日 京都新聞(朝刊)
「女性教諭振り返る昭和の山村
北区真弓分校勤務40年」
- 5月20日 京都新聞(朝刊)
「若者目線で情報発信
コミュニティFM87.0 22日開局」
- 6月10日 京都新聞(朝刊)
「つながりはSNS 対人は待ちの姿勢
大谷大 全国の20代1000人調査」
- 9月21日 石巻かほく
「京都・大谷大生13人 復興の先進事例学ぶ」
- 9月22日 読売新聞(朝刊)
「学生と住民 まちづくり 京都市新事業に6大学」
- 9月24日 石巻日日新聞
「大谷大学スタディ・ツアー 地域再生に学ぶ知恵」
- 9月24日 産経新聞(朝刊)
「学まち連携大学促進事業 6大学6事業を認定」
- 9月27日 毎日新聞(朝刊)
「6大学とまちづくり 連携事業 京都市が認定」



テレビ

- 5月23日 NHK京都放送局
「ニュース630 京いちにち／学生がラジオで魅力発信」

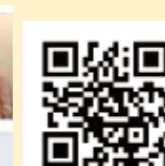
雑誌・機関紙

- コミュニティ・ラジオ局 RADIO mix KYOTO
「RADIO mix KYOTO FM87.0 7・8・9月号」大学生番組
- 京都・東本願寺
「同朋10月号」ミニレポート
地域と大学を結ぶ一町づくりを学ぶ大学生の取り組み
- 公益財団法人大学コンソーシアム京都
「The Consortium Universities in Kyoto No.48」
特集2 大学コンソーシアム京都
「学まち連携大学」促進事業等地域連携の取り組み



大谷大学の地域連携プロジェクト 日々の活動について発信中！

大谷大学地域連携室 コミュ・ラボに関する情報



コミュ・ラボの活動について日々発信中！

ラジオ番組 大谷大学HAPPY HOUR！

毎週火曜日19時からFM 87.0mhzで放送中！
聴取エリアは、京都市北区と上京区の各一部となります。



パソコンやスマホでも番組をお聞き頂けます。
詳しくは、「RADIO mix KYOTO」のWebサイト「放送の聴き方」をご参照ください。



オンエアレポート、スタジオポートレートなどをFacebookやTwitterで発信中！

キタ区キタ大路発のりトルプレス kitakita

P.11でご紹介していたサイトが2017年夏に公開します。URL <http://kitakita.otani.ac.jp/>

京都市北区 キタキタ

大谷大学地域連携室 事業報告書2016(2017年7月発行)

編集・発行 大谷大学地域連携室

お問合せ 大谷大学 地域連携室

〒603-8143京都市北区小山上総町 大谷大学 響流館1階

Tel 075-411-8015 Fax 075-411-8162 Mail commu-labo@otani.ac.jp